福島の児童文学者　３６

吉井　忠（１９０８―１９９９）

吉井忠氏は、昭和から平成にかけてシュールレアリスム（超現実主義）の洋画家として活躍する一方、紙芝居や絵本、児童文学作品の挿絵などの多くの作品も残している。今回は、吉井氏が子どものために手がけた作品について紹介する。

【プロフィール】

1908（明治 41）年に福島市陣場町に生まれる。旧制福島中学校（現福島高校）に入学。石川啄木と親交のあった波岡茂輝校長と出会い影響を受け、卒業する頃には洋画家を志す。1926（大正 15）年、中学卒業後に上京し太平洋画会研究所で学ぶ。1928（昭和 3）年には帝展に初入選し画家として歩み始める。この頃国内各地を旅行。また 1936（昭和 11）年から翌年にかけてはヨーロッパ各地を遊学。1948（昭和 23）年頃に豊島区西池袋（東京都）に居を定める。そこは当時「池袋モンパルナス」と呼ばれ、多くの芸術家や作家たちが住んで交流しながら活動していたという。1964（昭和 39）には主体美術協会の創立に参加する。1965（昭和 40）年からは中国、フランスやスペインをはじめとするヨーロッパや中央アジア、メキシコ、キューバなどへのスケッチ旅行や国内各地での個展開催等を精力的に展開し、画家として多くの業績を残す。また、数々の社会運動にも参加する。1999（平成 11）年９１歳で逝去。

【作　品】

◆紙芝居

戦後、子どもたちのために良質の教育紙芝居をつくりたいと願っていた堀尾青史、高橋五山、稲庭桂子、加太こうじらの活動に多くの作家・演劇関係者や画家、教育者が関わったという。

このような状況の中、吉井氏も『ぼくも人間きみも人間』（吉野源三郎原作　安井淡脚本）をはじめ、世界名作童話や伝承童話、『前島　密』（江守賢治文）や『シューベルト』（堀尾青史作）などの伝記物語の紙芝居の絵を描いている。特に宮澤賢治の生涯をテーマとした『雨ニモマケズ』（稲庭桂子脚本）は、賢治に寄せる吉井氏の思いが伝わる作品と評価が高い。

◆絵本

画家として活動する一方で、紙芝居や児童向け読み物に挿絵を描いていた吉井氏が、本格的に子どものための作品を手がけたのが月刊「こどものとも」（福音館書店）の絵本だと思われる。

「こどものとも」は 1956（昭和 31）年に創刊され現在も続いている月刊の物語絵本である。当時の子どもの本の絵画表現を一新し、一つの話に一人の作家が物語の始まりから終わりまで通して絵を描くという出版形態を採用し、それまで絵本の仕事の経験のない詩人や絵画以外の分野の造形作家などまでも起用した。編集長の松居直氏は「感性が育まれる大事な幼児期にこそ、一流の画家が丹精を込めて描いた絵に出会うことが大切である」という信念のもと、吉井氏をはじめ秋野不矩、佐藤忠良、丸木俊といった当代一流の画家たちの展覧会等に自ら足を運び、それぞれの物語にあっ

た画家を探し出し依頼したという。　吉井氏の作品は次の２作品である。

『きんいろのつののしか』「こどものとも」

安藤美紀夫 さく　吉井 忠 え

北の森に住むエゾシカの中に一頭だけ金色の角を持つシカの物語。躍動感あふれる筆致で美しく厳しい自然界のドラマを描く。

『あかちゃんのはなし』「こどものとも」

与田準一 さく　　吉井 忠 え

季節を背景に、赤ちゃんの出生と成長を祝う昔ながらの風習を描く。祖父や父、家族それぞれの人々のまなざしや表情の中に赤ちゃんの誕生を喜ぶ思いが伝わる。

◆児童向け読み物

吉井氏は「大地に生きる人間の姿を追求するリアリズムの画家」として知られ、常に同時代の美術や社会問題を真摯に受けとめ、現代に生きる画家として何をいかに描くべきかを常に問い続けてリアリズムを形成していったといわれている。戦争児童文学として高い評価を受けた**『木かげの家の小人』**（いぬいとみこ著）や**『マヤの一生』**（椋鳩十著）などの挿絵も手がけている。モノクロの線で描かれた子どもたちや動物のしぐさ一つ一つが、物語の大切なメッセージを伝えている。

また、**『バレーシューズ』**（ストレトフィールド原作）や**『小さなおばかさん』**（ザッパー原作）など世界各国の物語の挿絵には、世界各国をスケッチ旅行した経験が生かされ、それぞれの国の情緒が豊かに描かれている。

【絵の力】

子どもたちのための本にとって、絵・挿絵はとても大切な役割を担っている。そこに描かれた絵がイメージの基になり、子どもたちの想像を膨らませる。言葉では語り尽くせないことも絵をとおして物語に込められたメッセージをより深く心に伝えていく。

今回、吉井氏の手がけた温かさや柔らかさを持った線と豊かな彩色の数々の作品を手にして、あらためて「絵の力」を感じた。そしてさらに、吉井氏が次代を担う子どもために信念を持って取り組んでいた姿が伝わってきた。

当館に隣接する福島県立美術館には吉井氏の洋画や水彩画、デッサンなどの作品が所蔵されている。吉井氏の手がけた紙芝居や絵本、挿絵と共に、ぜひ味わっていただきたい。

【参考文献】

『吉井　忠展』福島県立美術館編刊　1992
『日本児童文学大事典』大阪国際児童文学館編　大日本図書株式会社　1993
『子どもの本と読書の事典』日本子どもの本研究会編　岩崎書店　1983　　ほか

〈児童資料チーム：大﨑眞希子〉

2011年3月31日確認分

吉井忠作品一覧（紙芝居、絵本、児童向け読み物の挿絵担当）

※所蔵館について【参考：国立国会図書館総合目録等】
〇＝福島県立図書館、福市＝福島市立図書館、国＝国立国会図書館国際子ども図書館、都＝東京都立多摩図書館、大＝大阪府立中央図書館国際児童文学館、北＝北海道立図書館、高＝高知県立図書館、宮賢＝宮澤賢治記念館，

初版年 （　）年齢	書名等 『　』書名，（　）シリーズ名等， 「　」全集等収録書名	著者名等	出版社	所蔵館※	形態等
1908年 （0歳）	出生				
1943年 （35歳）	**『北門の曙：郡司大尉 』**	広瀬彦太／作	画劇報国社	北	読み物
1950年 （42歳）	**『ぼくも人間きみも人間』** （新選生活指導紙芝居全集）	吉野源三郎／原作 安井淡／脚色	教育画劇	大	紙芝居
1953年 （45歳）	**『家なき子　前・後』** （世界名作童話紙芝居全集）	エクトル・マロー／原作 東山かおる／脚色	教育画劇	国	紙芝居
	『桃源にて』 （日本名作童話紙芝居全集）	武者小路実篤／原作 大川秀夫／脚色	教育画劇	都	紙芝居
1954年 （46歳）	**『海ひこ山ひこ』** （伝承童話紙芝居シリーズ）	大川秀夫／文	教育画劇，	国	紙芝居
1956年 （48歳）	**『雨ニモマケズ：宮沢賢治物語』**	森荘已池／著	小峰書店	国	読み物
	『前島　密』 （児童百科紙芝居全集）	江守賢治／文	教育画劇	都	紙芝居
1957年 （49歳）	**『イソップ全集』** 「ろばのおやこ」	大川秀夫／文	教育画劇	国	紙芝居
1958年 （50歳）	**『日本民話選』** （岩波少年文庫）	木下順二／著	岩波書店	〇	読み物
	『世界少年少女文学全集　諸国編』 「少女アネーリカ」	ボレスラフ・プルス／作 小沼　文彦／訳	東京創元社	大	読み物
	『兄とめくらの弟』 （世界名作童話紙芝居全集）	シュニッツレル／原作 大川秀夫／脚色	教育画劇	都	紙芝居
1959年 （51歳）	**『おばちゃんのこと』** （綴方紙芝居シリーズ）	野上洋子／作	教育画劇	都	紙芝居
	『にあんちゃん』 （綴方紙芝居シリーズ）	安本末子／原作	教育画劇	都	紙芝居
	『木かげの家の小人たち』	いぬいとみこ／著	中央公論社	国	読み物
	『ぼくも人間きみも人間』 （新選生活指導紙芝居全集）	吉野源三郎／原作 安井淡／脚色	教育画劇	宮	紙芝居
1960年 （52歳）	**『とらちゃんの日記』** （岩波少年文庫192）	千葉省三／著	岩波書店	〇	読み物
	『少年少女世界文学全集　ロシア編（2）』		講談社	大	読み物
	『少年少女世界文学全集　フランス編（5）』		講談社	大	読み物
1961年 （53歳）	**『シューベルト』**	堀尾　青史／作	童心社	高	紙芝居
1962年 （54歳）	**『少年少女世界文学全集　東洋編　（4）』**		講談社	大	読み物
1963年 （55歳）	**『がんばれ羊飼い』** （写真資料2．近代オリンピック）	大島鎌吉／監修 長崎源之助／文	教育画劇	大	紙芝居
	『少年少女日本文学全集　第20巻』 「木かげの家の小人たち」	いぬいとみこ／著	講談社	〇	読み物
1964年 （56歳）	**『雨ニモマケズ』**	稲庭　桂子／脚本	童心社	〇	紙芝居

初版年 （ ）年齢	書名等 『 』書名，（ ）シリーズ名等， 「 」全集等収録書名	著者名等	出版社	所蔵館	形態等
1965年 （57歳）	**『きんいろのつののしか』** （こどものとも107）	安藤美紀夫／	福音館書店	福市	
	『シンデレラひめ』 （せかいのおはなし）	ペロー／原作 木村庄三郎／訳	講談社	国	読み物
1966年 （58歳）	**『グリム名作集』** （世界の名作図書館　6）	ヤーコップ・グリム／作 植田敏郎／訳	講談社	大	読み物
	『少年少女世界の文学　5』 「フランダースの犬」	ウィーダ／作 村岡花子／訳	河出書房	国	読み物
1967 （59歳）	**『あかちゃんのはなし』** （こどものとも　134）	与田　準一／著	福音館書店	○	絵本
	『木かげの家の小人たち』	いぬいとみこ／著	福音館書店	○	読み物
	『バレエシューズ』 （ジュニア版世界の文学）	ノエル・ストレトフィールド／作	講談社	福市	読み物
	『猟人日記』 （ジュニア版世界の文学）	ツルゲーネフ／著， 神戸淳吉／訳	岩崎書店	福市	読み物
	『名犬ラッシー』 （世界の名作図書館　37）	ナイト／作，榎林哲／訳	講談社	大	読み物
	『若草物語』 （世界の名作図書館　16）	オルコット／作， 中山知子／訳	講談社	大	読み物
1968 （60歳）	**『智恵子抄』** （ジュニア版日本文学名作選47）	高村光太郎	偕成社	福市	読み物
	『小さなおばかさん』 （子ども図書館）	A・ザッパー／著 植田敏郎／訳	大日本図書	国	読み物
1969 （61歳）	**『きつねとにんぎょうつかい』**	前川康男／著	偕成社	○	絵本
	『空気がなくなる日』 （新日本創作少年少女文学　4）	岩倉政治／著	新日本出版社	○	読み物
1970 （62歳）	**『マヤの一生』** （子ども図書館）	椋鳩十／著	大日本図書	○	読み物
1971 （63歳）	**『2000人めのあかちゃん』** （偕成社創作どうわ）	香山美子／著	偕成社	○	読み物
	『日本のこわい話』 （少年少女類別民話と伝説　9）	須知徳平／編著	偕成社	○	読み物
	『みどりいろのこいぬ』 （創作幼年絵童話　23）	岩崎京子／著	実業之日本社	○	絵本
1972 （64歳）	**『くらやみの谷の小人たち』**	いぬいとみこ／著	福音館書店	○	読み物
	『ジャングル・ブック』	キップリング／原作 宮沢章二／文	世界文化社	都	読み物
1973 （65歳）	**『牛をつないだつばきの木』** （新美南吉童話選集　2）	新美南吉／著	大日本図書	○	読み物
	『谷間の呼び声』	ジリアン・エイバリ作	岩崎書店	○	読み物
	『みかづきとたぬき』創作幼年童話選	椋鳩十／作	小峰書店	○	絵本
1987 （79歳）	**『野口英世』** （少年少女伝記文学館　20）	神戸淳吉／著	講談社	○	読み物
1988 （80歳）	**『虔十公園林』**	宮沢賢治／作 筒井迪夫／解説	学校法人　柳瀬学園	宮賢	絵本
1989 （81歳）	**『百年前の報道カメラマン』** （講談社ジュニアノンフィクション）	千世まゆ子／著	講談社	○	読み物
1999 （91歳）	逝去				